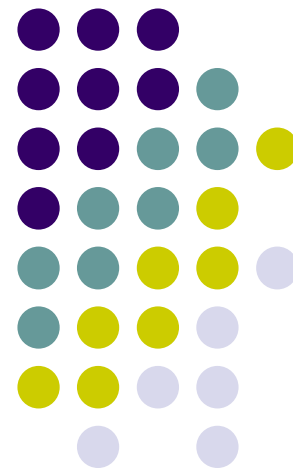


講演一3

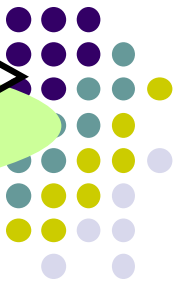
森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会

森林ESDのとらえ方



京都教育大学
山下 宏文

森林EDSによって、＜学校教育 社会教育＞ 森林環境教育のあり方の共通認識を図る！

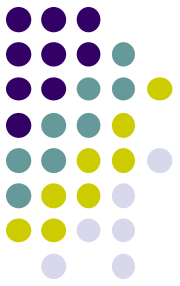


「森林環境教育」のとらえ方のいろいろ

- 体験主義：森林での体験そのものが目的
(in) → 感性を育てる
- 知識主義：森林について正しく知ることが目的
(about) → 知識をもつ
- 実践主義：森林で奉仕活動をするのが目的
(for) → 森林整備に参加する

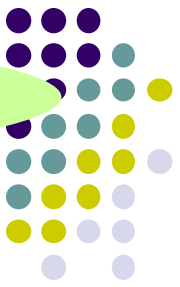
→○資質・能力主義：森林について知識・能力・
実践を統合することが目的

＊森林ESD(本来の森林環境教育)



森林環境教育とは、森林を中心とした環境教育 (本来の森林環境教育 = 森林ESD)

- 環境とは、「関係」をあらわす概念である
environment=まわりの条件・影響・状況(関係)
surroundings=まわりのもの(存在)
- 環境教育のねらい
「環境問題の解決とよりよい環境の創造」
- 環境教育の三つの視点の統合
 - ・環境の中で/からの(in)・・・環境を調べる力、感性
 - ・環境について(about)・・・環境に関する正しい認識
 - ・環境のために(for)・・・環境をよりよくする態度、参加



森林EDSによって、森林環境教育のあり方の共通認識を図る！

＜森林ESDの考え方＞

社会的課題への対応

教育的課題への対応

持続可能な開発のための教育（ESD）



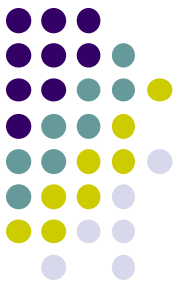
環境教育



森林環境教育



（各活動）



社会的課題への対応

- 持続可能な社会の実現
- 日本の危うい森林状況とその打開
- 地球温暖化の進行と温暖化効果ガスの排出削減
- 「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」(環境教育等促進法/H.23.6)
「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」
(旧法/H.15.7)の施行(H.24.10)

学校教育(社会科)における「森林」の扱い

*「森林」や「林業」の扱い方の変遷

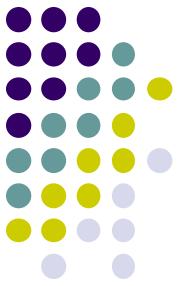


1940年代後半	林業の発展と資源の保護
1950年代	森林資源の積極的開発・利用
1960年代～	時代の変化に即応した対応
1970年代後半～	環境としての森林
1990年代～	森林資源の公益的機能重視と 国民一人一人のかかわり

教育的課題への対応

次期教育課程

育成すべき資質・能力の三つの柱



① 何を理解しているか、何ができるか

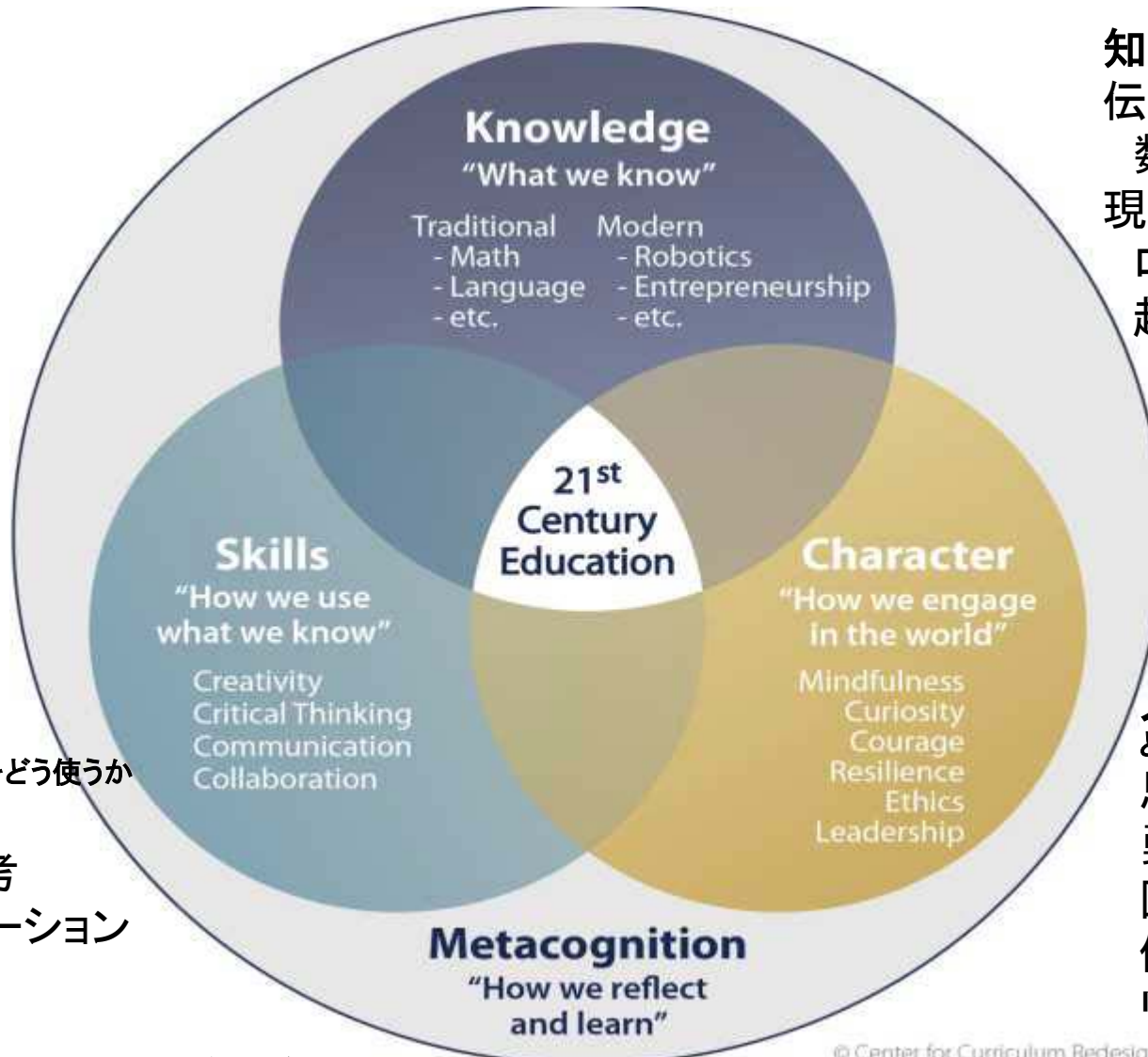
（生きて働く「知識・技能」の習得）

② 理解していること・できることをどう使うか

（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）

③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵かん養）

OECD EDUCATION2030のコンピテンシー



知識 何を知っているか
伝統的
数学 言語 など
現代的
ロボット工学
起業家精神など

スキル
知っていることをどう使うか
創造性
批判的思考
コミュニケーション
協力・協働

人間性 社会の中で
どう関わっていくか
思いやり
勇気
回復力
倫理観
リーダーシップ

メタ認知 どのように省察し学ぶか

「持続可能な社会づくり」の構成概念とESDで重視する能力・態度

『学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究[最終報告書]』 国立教育政策研究所 2012. 3



- 持続可能な社会づくりの構成概念

多様性 相互性 有限性 公平性 連携性 責任性

- ESDで重視する能力・態度

- ①批判的に考える力
- ②未来像を予測して計画を立てる力
- ③多面的、総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力
- ⑤他者と協力する態度
- ⑥つながりを尊重する態度
- ⑦進んで参加する態度 など



<森林ESDの考え方>

社会的課題への対応

教育的課題への対応

持続可能な開発のための教育（ESD）

持続可能な社会の実現
健全な森林の維持
地球温暖化防止

↓
環境教育

↓
森林環境教育

↓
(各活動)

ESD能力・態度

- ①批判②未来③他面
- ④伝達⑤協力⑥関連
- ⑦参加

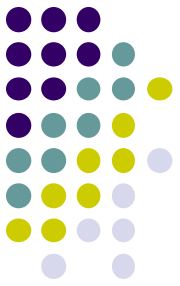
育成すべき資質・能力

- ・知識・技能
- ・思考力・判断力・表現力
- ・学びに向かう力・人間性

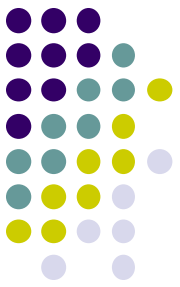
主体的・対話的で深い学び
(アクティブ・ラーニングの視点)

森林環境教育（森林ESD）の内容

（教材の条件）



- 美しい森林を実感できること
- 樹木や森林の特性がとらえられること
- 現実の森林の様子が具体的にとらえられること
- 生活と森林との「かかわり」が具体的にイメージできること
- 森林の維持・管理の方法が具体的にとらえられること
- 日本人と森林とのかかわりが見えること



森林環境教育(森林ESD)成立の三つのポイント

- 「体験の場」としての森林
→「森林」が豊かな体験を提供する場となること
- 「知る場」としての森林
→「森林」が正しい知識を得る場となること
- 「かかわる場」としての森林
→「森林」がかかわりをつくりあげていく対象となること



今後の充実に向けて

- 森林環境教育（森林ESD）として成り立つのか？
 - 十分なところ と 弱いところ（今後の補強点）
- 学校教育との連携を如何に図るか？
 - 教育課程との連関
 - 課内（教科、総合等）の教育活動との連携
 - 課外（緑の少年団等）の教育活動との連携
- 関係機関の連携のあり方はどうか？